

未来館

MIRAIKAN NEWS

自分らしさを生かした未来へ—— 2004.12 No. 17

特集 どう乗り越える?思春期の心とからだ
子どもの『SOS』発見講座



福島県男女共生センター広報誌

どう乗り越える?思春期の心とからだ 子どもの『SOS』発見講座

○とき／平成16年11月28日(日) ○ところ／福島県男女共生センター 第2研修室

平成16年11月28日に、「子どものSOS発見講座」を開催しました。

第1部では、木村慶子氏に、テーマ別に講座形式でお話しいただき(①子どもと心の病気、②子どもと食事、③子どもへのかわり方)、その後の2部では、木村慶子氏、高橋愛子氏、下村満子館長のトークショーを行いました。

ここでは、木村慶子氏の講座の中でも基調的な講座であった①子どもと心の病気と第2部のトークショーをまとめた内容をご紹介します。



第1部：SOS講座

今日は、思春期の問題ということがテーマですのでそのお話と、思春期の問題は乳幼児期からの問題が絡んでおりますので、子どもの心の発達というところのお話をしたいと思います。

〈子どもの心の問題〉

子どもはもちろん大人を小さくした存在ではありません。大人にはない、子どもにある特徴は、成長することですね。まず身長・体重・内臓などの身体の量的な変化がありまして、それと同時に、脳の発達などの精神的な成長も同時に起こっています。特に運動機能や感覚機能、精神発達などが急激に進行しているのが子どもです。子どもの発育は、受胎からはじまり、本当に細かいステージがあり、それぞれのステージでいろいろな変化をしていきます。

子どもの死亡率が下がったということは医療水準が高いことを示しているわけなんですけれど、かたや体と心を考えますと、心の問題が今、それに反比例してしまって、非常に問題を抱えているということと、とても大きな問題として取り上げなければいけないことを感じているわけです。

乳児死亡率の低下など医療的な面では進化しているのに、医療に関わる社会的な面での「心の問題」がうまくいっていないのかということは一つの大きな問題ですね。

講師

木村 慶子先生

東京生まれ。慶應義塾大学医学部卒業。医学博士。小児科医として永年にわたり慶應義塾幼稚舎・中部部・普通部の校医を務める。ドイツ ケルン大学医学部〈小児思春期精神神経科病院〉研究留学。慶應義塾大学保健管理センター教授を経て、現在、医療法人社団「こころとからだの元氣プラザ」「女性のための生涯医療センターVivi」所長。



〈思春期について〉

思春期についての学問は、ここ20年ほど比較的最近になって行われるようになりました。思春期は「前思春期」、「思春期前期」、「思春期中期」、「思春期後期」、「後思春期」の5つのブロックに分かれます。まず、前思春期ですが、これは11、12歳、小学校5年生の後半から6年生ぐらいの頃ですね。ちょうどひげや恥毛が生えたり、声変わりが起きるなどの第2次性徴が出はじめたあたりです。このころはかなり子どもの心が揺れ動きはじめる時期で、大きな不安を持っています。このとき一番大事なことは、ぐらぐら動いている子どもの心がちょっと受け止めてあげることです。4年生頃までは、しっかりとした子どもの正義感を持って発達していますが、前思春期に入りますと、友達同士けんかしたり何か問題を起こしたりして、「あんなにしっかりしていた子がいったいどうしたんだろう」と思うような行動を取りやすい時期があります。この時期は、大人の世界に飛び込んでいく前の、親に甘えきって、親から大きな力をもらって飛び出そうとしている準備をしている時期です。それを認識してあげないと不安を抱えたままとなります。また、この時期は性に対する不安もある時期でもありますし、いわば母親や父親との絆を結び直す時期でもあります。続く思春期前期は、13歳から15歳、つまり中学生の段階ですね。性の問題なども親には言えなくて、同世代の同性の集団でいろんな話をしながら、自分の認識を高めていったり、安心したりします。思春期中期というのは、高校生時代のころにあたります。同性だけのグループから、異性に関心を持つようになります。自分の先輩とか先生方に相談することを通じて、自分の内面を高めていく時期です。ただこの思春期中期は、いろんな事件を起こしている人が多い年齢層でもあります。誇大妄想的になったり、自分をだめな人間だと思ったり、精神的な混乱が起きる時期です。思春期後期は、大学生ぐらいの時期ですが、自己を確立する最終的な時期です。道徳観の内面化や倫理観を身につけ、自分のアイデンティティを確立するようになります。

〈今の時代に求められる子育て〉

漠然として思春期だとはいいますがけれど、このように細かい発達各ステージがあります。世の中どんなことがあっても、人間の子どもは人間からしか生まれられないわけですし、人間として育てるのは人間しかいないわけです。今の時代、子ども

も大人も、未来に対して夢を持つことが難しい時代です。子どもたちが夢を持てるようにするために、今いる子どもたち、これから生まれてくる子どもたちをどうやって育てていくかを見直す必要があります。

生まれたお子さんは全て違うわけだし、個性があるわけですが、持って生まれたDNAを120%開花させてあげることが子育てということなんですね。遺伝と環境という問題もありますが、DNAの遺伝子というのは人間形成の60%ぐらいに影響しているということですが、あとの40%は環境といわれていますから、いかに子育ての環境をよくするかで、一人ひとりの子どもが本当にピカピカ光った子どもに育てられるわけです。それをしないことはとてももったいないことです。それをどうしたらいいかというのは大きな問題ですが、自分の子どもを自分でしっかり育てることが原則だと思いますし、家庭教育というものが、人を育てる根本的なものだと思います。

この間の、大変心を痛めた、新潟県中越地震の時に、救命隊員の方が優太君を救いましたよね。優太君の姿を見たときに、盛んに声をかけていました。「そこにいるんだね」、「動いちゃダメだよ」、「よく頑張ったね。」とか、何度もあたたかい声をかけていました。そうして、助かったときには優太君をぎゅっと抱きしめました。全ての社会が、あの救命隊員のような気持ちで、全ての子どもたちに対して声をかけてあげられる社会はどんなに素晴らしいことでしょう。そういう社会の姿勢が少しでも不安な子どもたちを救ってあげられるんじゃないかなって思うんです。

木村氏、高橋氏、下村館長の3人が、ご自身の体験などを交えながら子どもの育て方などについて、とても気持ちがあたたかくなるようなお話をいただきました。

募集人数を大きく上回るほど集まった会場の皆さんは、熱心に聞き入っていました。



第2部：トークショー

下村 皆様お疲れ様でした。これまで大変密度の高い時間を過ごされて、いかがでしたか?これからはトークの時間なのでリラックスして聞いていただければと思います。

私の子ども時代は、戦争直後で、親が満州から命からがら引き上げてきた頃です。まさに戦後の再出発で、東京で生活の安定を得るまでは、二本松の祖母の所に預けられました。そして、ここ二本松の小学校に2年くらい通ったんですね。ですから、私はこの場所とかなり縁が深いのですよ。二本松の祖母は大変厳しくて、朝は三つ指ついて「おはようございます」とあいさつしなさいと言われましたし、小学校2年生位でしたか、私がおばあちゃんのご飯をよそって「おかわりいかがですか」と聞いておかわりを差し上げたり、そういうしつけをされました。二本松に親がいなく、この土地に馴染みの無い変な女の子が一人入ってきたということもあったのでしょね、小学生の当時はいじめにありました。本当にあの時は悩みましたが、祖母に言うとは叱られると思い、なかなか相談できませんでした。でもどうにもならなくて、打ち明けたところ、祖母が学校に怒鳴り込みに行ってくれたのです。当時いじめはありました。だけど陰湿さとか何かは今とは違う気がします。そのあたりについては、高橋さんにお聞きしましょうか。高橋さんは今、家庭教育研究所の所長です。そこで、セラピスト、あるいはカウンセラーとしてたくさんのお子さんを見ていらっしゃいます。いじめの問題をはじめ、私たちの時代と比較して、何が違うのか、何が子どもたちの問題を深刻にしているのか感じていることをお願いします。

高橋 やはり、家庭自体が変わってしまったと感じます。私たちの頃は、家というのは、一番安心な場所で、何を言っても許される、癒される場所だという思いがあるんですね。今は逆に、家の中がすごく厳しい環境になっていると思うんです。昔は、この家においていいという安心感をもって暮らすことができました。家庭の役割というのは、命を生み育てていくこととそこで暮らす力を身につけることだと思うんですね。今は、何か能力がある子、何か知っている子、親にとって期待が持てる子だけが良いい意識がはびこり、家が安心できる場所ではなくなったことが1つの問題なのではないでしょうか。

下村 昔は子どもが大勢いて、5人とか6人とか多いと9人、10人ですよ。今日のように、育児の知識を勉強する暇もなく、ただ無我夢中に育てた時代なのに、うまくいっていたのが不思議ですよ。それはなぜなんだろうと考えると、昔は、家事も薪を割ったり水をくんだりしなければならなくて、母親は全ての子どもの面倒をみるどころじゃなかったと思うのです。それで、兄弟姉妹の年上の子が下の子の面倒を見るなどで、家中が一家を支えるために働くのが当たり前だったんですね。そこで喧嘩したり、慰めたりを子どもたちの中でして、コミュニケーションをとっていたんですね。むしろ、今のように、一人っ子の方が大事に育てているつもりでも、それが本当の意味での愛じゃなくて、親のエゴだったり、また、子ども一人にかかるお金が多くなって、一見裕福に思えますが、そのことが逆にマイナスになったのでしょね。

高橋 おっしゃる通りだと思います。昔と大きく変わったと思うのは、親御さん自身が自分を信じる力がすごく減ってしまったことだと思うんです。絶えず不安で、周りと比較して、本当に否定的な生き方をしている。親のそういう部分を子どもが取り入れてしまったことが大きいと思うんですね。

下村 そのマイナス思考で全てだめとか、自分の方が劣っていると思うとさらに悪い方に行ってしまうんですね。私もどちらかというと楽観主義とか能天気と言われるんですけど、むしろ能天気の方が良いんじゃないかと思うんですけれどもどうでしょうかね。

高橋 昔の親たちというのは、子どもを授かったこと自体がありがたいという気持ちで子どもを育てていたと思うんですね。今の人たちは、命はどうやって授かったかという深い思い、人としての思いが欠落している感じがたまに感じます。それは社会状況がそうさせているかもしれないけれども、すごく悲しいことですよ。

下村 私が子どもの時は、父も母も働いていたんですよ。でも、必ず一日に夜だけは、父親、母親、子どもたち3人が同じ食卓でわいわい話し合う時間がありました。父親も母親も、私たちを子ども扱いしないで真剣になって聞いてくれましたね。それが私たちのコミュニケーション能力やディベートの方法だとか自分の考えを表現する練習に自然になっていたと思うんです。それが今も私の感覚の中に、子ども時代の楽しい思い出として強く残っているのです。親が働いていて時間が無いといっても、いざという時、何か私が悩んだり困ったりしたときには、親は必ず私の話を聞いてくれるという安心感がありました。

高橋 そうですね。私の母も仕事をしていました。私は、物ってすごく大事だと考えていますが、今の親たちの物の与え方はというと、いつでもぱっと買ってあげますという感じがすよね。ですから物を全然大事にしないんです。物のことで

思い出すのは、戦後でしたので靴などなかなか手に入りませんでした。運動会が明日だというある日、母がなんだか夜なべしているんですね。次の朝起きたら、枕もとにちゃんと名前の書いてあるタビが置いてあったのです。母に、「これは愛子ちゃんの。これは慶子ちゃんの。このタビを履いているときは、絶対けがはしないし、すごく速く走れるから、このタビを履いて頑張てね。」と言われた思い出があります。物イコール親の思いがそこにあって、とても気持ちがあたたかくなったのです。今の時代はそういった感覚がだんだん薄れていく気がするのです。いま、下村さんが家族で会話があったとおっしゃいましたが、これがすごい大事なことだと思うんです。

下村 ここで、木村先生にお話をさせていただこうと思います。彼女は大学の医学部に入って、医者になり、同じ医者の方と結婚なされて、3人のお子さんがいます。そのお子さんの中のお一人は、やっぱりお医者さんになられました。そのお子さんも木村先生と同じく、私の「女性のための生涯医療センター

どんなときでも子どもを信じること、
祈り続けることはできる (高橋)



高橋 愛子氏 (高橋愛子家庭教育研究所長)

東京生まれ。木村慶子先生の妹。慶應義塾大学経済学部卒業。結婚後、家庭教育の研究をはじめ、昭和58年には高橋愛子家庭教育研究所を設立してカウンセラー、セラピストとして活躍する。三男、一女の母親。各地の教育委員会が主催する家庭学級の講師、保育園や学校、各種団体、諸企業等で教育講師を担当、さまざまな講演活動も行っている。

VIVIに精神科医として勤務していただいています。

今までは自分たちと親ということでお話していただきましたが、今度は自分たちが子育てをなさってみて、どういうことに一番苦労したり、悩んだりしたことをお話ししたいのですが、いかがでしょうか。

木村 私は、42年、44年、46年生まれの子の娘を持つ母親です。私は、出産前後のときも仕事を続けていました。最初の子どもは出張先の病院で出産しました。3人を育てた感想として、まずは自分が小児科医で良かったなということです。職業柄、いろいろ離乳食の工夫をしたり、予防接種したりなど、少しは皆さんよりも心配なくできたことは幸いでした。ちょうど子どもが生まれる時期に乳児院に勤務させて頂いた時などは、自分の子どもと一緒に育てたような感じでしたし、幼稚園の時は健康相談センターという所にて、育児相談とか予防接種とかそういう事を担当して、そこでも子どもが近くにいる環境でお仕事をさせて頂きましたね。本来、ずっと

私の父も母も子ども扱いをしないで 真剣に聞いてくれました (下村)



とお勤めしていると、子どもの学校の様子なんて分からないわけですよ。それがしっかりと分かるような勤務場所にすることができたことは大変幸せでした。それから、子どもが小さいときは実家の母に大変お世話になりました。本当に周りのサポートがあって子育てはうまくできたと思います。今、長女が医者になっていますけど、仕事場と一緒に、私が外来をやっているときは一緒に帰って食事したりしています。

私の子どもの頃、私たちも三姉妹でして、母は私が高校生の頃、食事や洗濯などを当番制にして、3人で担当させられました。私はその頃医学部受験の頃でしたから、明日試験だというときでも当番の日は食器の片づけをしないとイケない。本当に半分泣きそうになったんですけど、その時を乗り越えられたから、結婚してから、仕事と家庭の両立をするときに非常に役に立ったんですね。家事をあまり苦にすることがなくなったのです。母のしつけを思いますと、子どもの時にそういうことをしてくれたのはとてもありがたかったと思います。

高橋 私の嫁ぎ先は商家でして普通の家庭と価値観が全然違うんですね。私の夫は、寂しい少年時代を過ごしたようですので、それを何かしてあげられると意気込んで家に入りましたが、商家には昔からいるお手伝いさんがいたんで、私が入り込んでいくには、本当に高く難しい壁だったんですね。この家で私がどうやって生きていくかが一番の悩みでした。そうこうしているうちにどんどん子どもが生まれて、それはありがたいのですが、私は子どもに接するとき、夫の実家のことを気にしちゃって、子どもが泣いていても「ちょっとおじいちゃんのことがあるから待っていてね。」とか、子どもを後回しにしていたことがあったんですね。あるとき、自分が母にもらったように一生懸命子どもに接していても、子どもとの関係がうまくいかなかったんです。子どもが、不安定になったというか、すごく落ち着きのない子になってしまったのです。子育て中、これまでいろいろ皆さんに助けていただきました。私の嫁いだ商家は、昔からいる婆やさんみたいな人が

下村 満子 (福島県男女共生センター館長)

慶應義塾大学経済学部卒業。ニューヨーク大学大学院経済学修士課程修了。朝日新聞社入社、「週刊朝日」記者、朝日新聞ニューヨーク特派員、ハーバード大学 ニーマン特別研究員、「朝日ジャーナル」編集長、朝日新聞編集委員などを経て、フリーのジャーナリストに。現在は健康事業総合財団「東京顕微鏡院」および医療法人社団「こころとからだの元氣プラザ」理事長を兼任。その他、経済同友会副代表幹事、福島県男女共生センター「女と男の未来館」館長などを務める。

家の中を何でも取り仕切るわけです。人が大勢いましたから子どもに私がおっぱいをあげることも出来ないときに、取り合うようにして皆が子どもを育ててくれて、私が忙しくてもなんとかできたのです。じゃあ私は、特別に何がしてあげられるんだろうかとまたその時悩んでですね。直接いろんな事ができなくても、私はどんなときでも子どもを信じること、祈り続けることはできると思ったんです。それから、どんなことがあっても子どもは絶対大丈夫といつも言い聞かせながら育ててきたんです。そう思うことによって自分も勇気づけることができます。そんな育て方が私にはずっと続いています。

下村 ありがとうございます。それと、先ほどの木村先生の講義で、3歳までとか4歳までの幼児期が大事だというお話がありましたよね。では、子どもがその時期を過ぎてからの講義を聞いた人はどうすればいいのかと思ったんですよ。もちろんこういう講義を出産前に聞くのが一番良いんですけども、大部分の人はこんな良いお話はめったに聞けないわけですよね。それで木村先生にご質問なんですけど、これからでもできることは何でしょうね？

木村 子どもというのは、自分が誰かに認められている、愛されてる、大事にされている、という気持ちがありますと、良い方にとらえられて変わります。それにはまず子どもの体を心配してあげるといえることがすぐにできることだと思います。「今日元気？疲れてない？」とか声をかけてあげて、そうすると子どもは、「ああ、すごく自分を大事に思ってくれているんだな」という気持ちになるんです。ですから、まず子どもとコミュニケーションをとる場合はとにかくこっと笑って「今日は大丈夫？元気？」と声をかけることがきっかけになると思うんです。そうして、だんだん心を開いていった子どもがさらにいろんなことを親に伝えてくるようになります。それを全部受け止めてあげられるようになっていただければと思います。そうすると、子どもとのコミュニケーションがうまくいくのです。コミュニケーションがうまくいかない限りは何を言っても子どもは受けつけませんからね。まずは誉めたり認めてあげて、本当に真剣になって一人の子どもと向き合っていけば、手遅れだということはありません。いつでも取り返しのつくことだと思います。

高橋 まずは、生命を大事にすることが基本なことだと思います。命にかかわることについて教えるときは、何にしても厳しく伝えるということが必要です。他人や自分の命に危害がない限りは、基本的に自由になん



真剣になって一人の子どもと向き合えば 手遅れということはない (木村)

でもして良いと思うのです。ただし、人間は一人で生きているわけではなく集団で生きるわけですね。ですから、自分の存在が相手に負担になった時はもうストップだと思うんです。体は五大栄養素とかですけど、心の馳走は喜びだということを私は確信しているんです。喜びというのは、自分が好かれていると感じる気持ちなんですね。お父さんやお母さんからの「お前が大好き」という言葉を全身で受け止めてくれた子は自分を誇りに思いますから、大きくなってから自分で自分を育てていくことができると思います。私が相談を受けた事例の中でも、子どもが非行をしたときでも、「あなたは大丈夫だ」と言い続けて立ち直ったケースも見えています。「あなたが自分を探するために自分を幸せにしようとやった行為なんだから、その時のあなたは正しかった」と言い切ったことが大切だと思います。そうすると自分の迷いとか不安とかが解消されるのです。そうすると、次は、自分でどういう行動を取ればいいのかという思考が働くわけです。

下村 そろそろ時間がやってまいりました。高橋さんからは、子育てのカウンセラーとして、木村先生からは、小児科医としての専門的なお立場からお話いただきました。さらにお二人から、ご自分の子育てした経験に基づいた、子どものSOSに気づき、愛するためのヒントをたくさんいただいたと思います。会場の皆さん、本日は、どうもありがとうございました。

鹿嶋 敬氏らを迎え、講演会を開催しました!

市町村男女共同参画推進講演会

○とき／平成16年11月26日(金) ○ところ／福島県男女共生センター 研修ホール

11月26日(金)、男女共生センターにおいて、「市町村男女共同参画推進講演会」を開催しました。

はじめに、会津高田町男女共同参画推進審議会会長の兼子徳嗣氏が、「男女共同参画 我が町の取り組み」と題して条例制定の経過を発表し、続いて、日本経済新聞編集局編集委員の鹿嶋 敬氏が「どう築く男女共同参画の時代」と題して講演を行いました。

(兼子 徳嗣氏発表要旨)

平成14年春頃、町長が知事の話に感銘して、男女共同参画条例を制定したいと言いました。当時、商工関係を始めとし、町に活気がなかったため、男性のみでなく、女性も参加して町づくりをし、活気を取り戻したいという狙いがありました。平成14年12月に「会津高田町男女共同参画推進まちづくり条例」が公布・施行され、県内で第1号の条例となりました。

条例作りで大事なことは三つあると思います。一つ目は、首長の強い信念。二つ目は、建設的な夢を持って望むこと。三つ目は、多少の強引さ(強いリーダーシップ)も必要です。



発表者: ^{かねこ}兼子 ^{とくし}徳嗣 氏(会津高田町男女共同参画推進審議会会長)
「会津高田町男女共同参画推進まちづくり条例」(平成14年12月施行)の制定、「会津高田町男女共同参画推進まちづくり行動計画男女共同参画推進プラン」(平成16年3月策定)の策定に携わる。

(鹿嶋 敬氏講演要旨)

少子化の原因は、高学歴化、教育費の高騰などが挙げられていますが、少子化に歯止めがかけられるとすれば、男女共同参画型社会の形成しかないだろうと思います。30代の男性で育児休業を取りたいと思っている人の割合は3割ぐらいですが、この年代は仕事が忙しすぎて現実には取れません。また、いまや、夫1人だけでは、妻子を養うだけの給料は稼げず、共働きの家庭が増えています。そこで、仕事と家庭の両立支援が重要となってきますが、来年4月から次世代育成支援対策推進法が施行されることになっています。

男女共同参画型社会の形成は、ジェンダーの主流化とポジティブアクションの2つの手法を使って行います。EUは、はっきりこの手法でやっています。福島県も、「福島県職員男女共同参画推進行動計画」を作って取り組んでいるようですね。

最近では、CSR(企業の社会的責任)という海外からの圧力があり、企業も、人権への配慮として男女共同参画について考えざるを得なくなってきました。また、自治体でも、千代田区、福岡県福岡市などは、公契約の場に男女共同参画を取り込んでおり、取引企業は男女共同参画に関する報告書を提出しなければなりません。これからは、自治体もどうやって男女共同参画社会を形成していくか工夫することが課題になってきます。

新しい経済システム、新しい男女の在り方を構築していかなければなりません。



講師: ^{かしま}鹿嶋 ^{たかし}敬 氏(日本経済新聞編集局編集委員)

千葉大学を卒業後、日本経済新聞社に入社。編集局生活家庭部長、編集局次長兼文化部長、編集委員兼論説委員を経て現職。内閣府男女共同参画会議専門委員を兼務。

著書:『男女共同参画の時代』(岩波新書、新刊)、『男女摩擦』(岩波書店)、『男の座標軸』(岩波新書)、『男と女 変わる力学』(岩波新書)など。

社会教育パワーアップセミナー 男女共同参画推進トップセミナー

公開フォーラム開催

○とき／平成16年12月4日(土) ○ところ／白河市文化センター

平成16年12月4日、白河市文化センターにおいて、社会教育パワーアップセミナー受講者を含め、学校教育、社会教育関係者など教育分野に関わるリーダーを対象に、公開フォーラムを開催しました。

はじめに、お茶の水女子大学名誉教授で東京女学館大学教授の天野正子さんが「あなたがつくる男女共同参画社会」と題して基調講演を行いました。講師の天野さんは、男性と女性の人間関係のなかで、今までの性別役割分業に基づく「もたれ合い」の社会から、互いの自立を「支え合う」ような社会にしていきたい、男性と女性の人間関係がしっかりしていけば、大人と子ども、大人と大人、障がいのある人とない人などあらゆる人同士の関係も良くなっていくと述べられました。また、これらの基礎となる男女共同参画社会とはどんな社会か、また、その実現にむけて、家庭での人間関係の築き方、学校における内なる人権意識や隠れたカリキュラムへの気付き、新しい時代の地域での生き方、地域づくりのあり方などを通して、21世紀の人づくり、人と人との関係づくりについてお話されました。

続いてのシンポジウムでは、コーディネーターを引き続き天野さんに務めていただき、県内で活躍する4名の方々から、日頃の実践や今後の提案などが発表されました。学校教育の立場で、福島市立笹谷小学校長の今野滋子さんから、「ジェンダー」にとらわれない学校づくりと、それを保護者や地域へ発信して共有する手法について、元高等学校教諭の角



○コーディネーター:

東京女学館大学国際教養学部教授 天野 正子 氏

田勝重さんから、県立橋高校での実践を中心に、ふくしま教育週間へ続く地域に開かれた学校づくりや組織的な男女平等教育の推進体制などについて御報告がありました。さらに、しらかわ男女共生会議会長の鈴木雅文さん、県地域教育力活性化推進員の遠藤貴美子さんからは、PTAの活動や、それぞれお住まいである白河市の取組み、川俣町の取組みへの積極的な関わりや働きかけの具体的事例について述べていただきました。

地域づくりや人材育成に欠かせない男女共同参画の視点から、家庭・地域・学校の連携について参加者の方も含め、活発な意見交換がされました。

○シンポジスト:

福島市立笹谷小学校長	今野 滋子 氏
元福島県立橋高等学校教諭	角田 勝重 氏
しらかわ男女共生会議会長	鈴木 雅文 氏
福島県地域教育力活性化推進員	遠藤貴美子 氏



県民企画チャレンジ講座 「ゼロからはじめるNPOのコミュニケーション術」

- 実施:12月11日(土)、12日(日)
- 場所:福島県男女共生センター第2研修室



「ハンズオン!埼玉準備会」の吉田理映子氏、西川正氏をお迎えし、「思いの伝え方」について学びました。

NPO活動に代表される市民活動をもっと充実させるために行っている人気の講座で、今回も市民活動をされている多くの方に参加していただきました。

活動する皆さんは、いろいろな思い出があってさまざまな活動をしています。そこで、1日目は、その思いをみんなに伝えるための「企画」立案と「広告広報術」について学びました。また、お昼を食べながらの「ランチセッション」で参加者同士の交流の時間も持ちました。

2日目は、1日目の「広報」について、ワークショップで理解を深め、市民活動を継続させるための「資金調達術」、そしてそれを持ち帰って現場にどう活かすかについて学びました。

参加した方からは、「伝えたいことは、なかなか伝わらない。いかに相手に伝えるかのヒントをもらった。」「とてもわかりやすく、すぐに使える内容でした。」「参加できなかった仲間たちに持ち帰り伝えたい。」「今回出会った方々とこれからもつながりを持ってたら良いなと思う。」といった感想をいただきました。ぜひ、これからの活動に活かしていただきたいと思います。

図書室からのお知らせ

○センターの図書をお近くの図書館から借りられます!

当センター図書室は、女性問題・男性問題・ジェンダーなどの「男女共同参画」関連図書を専門に収集しています。

当センターの所蔵図書を最寄りの図書館(一部の公民館)を通じて貸出します。

詳しくは、お近くの図書館・公民館または当センターへお問い合わせください。

当センターの問い合わせ先

→TEL0243-23-8308(図書室直通)

※ただし、以下の資料は貸出しいたしません。

- ・禁帯出ラベル貼付図書
- ・新聞・雑誌・行政資料・団体資料 など

当センター図書室所蔵資料は、当センターホームページから検索することができます。

<http://www.f-miraikan.or.jp/index4/4-1.htm>

多くの県民の皆様のご利用をお待ちしております!

○絵本の読み聞かせ&ママとパパの読書タイム



図書室では、日ごろお子様の育児で忙しいママやパパに、しばしの間本を読んだり選んだりするひとときをお過ごしいただけるよう『絵本の読み聞かせ&ママとパパの読書タイム』を毎月第3土曜日に開催しています。

料金は無料です。お問い合わせ・申し込みは、**電話0243-23-8303または0243-23-8308(図書室直通)**まで。

センター事業紹介

男女共同参画基礎講座

“人権”ってなんだろう？“男女共同参画”ってなんだろう？かたくるしそうだし、自分には関係ない…かも？！でも自分らしく生きることが生き活きと生きることって、考えてみるとみんなの問題になってくるんだよね。名前がかたいけど、内容は柔らかい講座を受けてみませんか？

- 主催 福島県男女共生センター
- 日時 平成17年1月21日(金)・28日(金)
- 場所 福島県男女共生センター
- 定員 30名 ○受講料 無料

- ・「セクシュアリティと『男女共同参画』」
- 講師…小浜 耕治さん
(東北HIVコミュニケーション代表)

- 講座内容
- 〈1日目〉 1月21日(金) 10:00～15:30
- ・「人権から考える共生」(仮題)
- 講師…高橋 準さん(福島大学行政政策学類助教授)

- 〈2日目〉 1月28日(金) 10:00～15:30
- ・「ジェンダーと人権、身近なところから考えよう」(仮題)
- 講師…NPO法人市民 メディア・イコールさん

地域リーダー養成講座

第3回 基礎コース

男女共同参画社会の推進を目指し、県内の各分野で積極的に活動したいと考えている方、初めて男女共同参画行政の担当者となった方などリーダーとなる人材の育成を目指す講座です。男女を問わずご参加ください！

- 会場…福島県男女共生センター ○受講料…無料
- 募集定員…先着50名(定員に達し次第申し込みを締め切ります。受講決定者には、申込締切後に受講決定のお知らせをお送りします。)

日程	月日	時間	内容	講師
前期	2月5日(土)	10:30～12:00	講義「みーんなちがってあたりまえ～男女共同参画とは～」	福島県男女共生センター 調査研究室長 湯田 邦彦
		13:00～15:00	講義「男女共同参画社会実現へのあゆみ」	桜の聖母短期大学 専任講師 二瓶由美子氏
	2月6日(日)	10:00～12:00	講義「住民参加と市町村財政」	財団法人ふくしま自治 研修センター教授 遠藤 哲哉氏
		13:00～15:30	演習「コーチング入門～コミュニケーション能力をアップさせよう!～」①	コーチ 前田 文氏
後期	2月19日(土)	10:00～12:00	講義「NPOが地域で果たす役割」	NPO法人ふくしまNPO ネットワークセンター副理事長 松田 英明氏
		13:00～15:30	演習「コーチング入門～コミュニケーション能力をアップさせよう!～」②	コーチ 前田 文氏
	2月20日(日)	10:00～12:00	講義「環境と生命と地域」	福島県鳥獣保護センター長・ NPO法人ふくしまワイルドライフ 市民&科学者フォーラム副理事長 溝口 俊夫氏
		13:00～15:00	講義「災害に強い、元気なまちづくり～地域社会を支えるネットワークを拡げよう～」	NPO法人 ハートネットふくしま理事長 吉田 公男氏

※この講座には無料託児はありません。

主催:福島県男女共生センター

◎講座に関するお問い合わせ・お申し込みは…

事業課(電話 0243-23-8304 FAX 0243-23-8314)

メールアドレス mirai@f-miraikan.or.jp (添付ファイルのあるメールは開封しませんのでご注意ください)

ホームページアドレス http://www.f-miraikan.or.jp

～相談室のご案内～

**秘密厳守
相談無料**

相談室では、ドメスティック・バイオレンスで悩んでいる方、家族のことで悩んでいる方をはじめとして、皆様が日常生活の中で直面するさまざまな悩みや問題を解決するためのお手伝いをしています。

○一般相談の受付時間

- 火曜日～日曜日 午前9時～12時、午後1時～4時
- 水曜日のみ 午後1時～5時、午後6時～8時

○専門相談(事前予約制)

- 法律相談(要予約)
離婚による財産分与、慰謝料、親権、相続、金銭などの法律問題について、弁護士がお答えします。
相談日時・・・毎月第1・4水曜日/午後1時30分～午後3時30分まで

●こことからだの健康相談(要予約)

不安やイライラ、鬱、不眠、摂食障害などの心の相談や、更年期障害、婦人科系の症状、不妊、性に関することなど体の相談について、専門医がお答えします。

相談日時・・・(こころの相談) 毎月第2水曜日

午後1時30分～午後3時30分(精神科医)

(からだの相談) 毎月第3水曜日

午後1時30分～午後3時30分(産婦人科医)

※専門相談を希望される方は、事前に相談日を予約してください。

連絡先:福島県男女共生センター 相談室
電話 0243-23-8320まで

○女性の就業を支援します!

再就職のために技術を身につけたい女性を対象に、技術講習会を実施するとともに内職を探している方の就業に関する相談を受け付けております。相談窓口は以下のとおりです。

相談の場所	電話番号	担当地区	相談時間
福島県男女共生センター	0243-23-8307	福島市、二本松市、伊達郡、安達郡、原町市、相馬市、相馬郡	火、木、金/9時～12時、13時～16時 水/13時～17時、18時～20時 (都合により変更となることがあります)
女性就業郡山相談コーナー (うつくしまジョブパーク内)	024-927-4030	郡山市、須賀川市、田村郡、岩瀬郡、石川郡、白河市、西白河郡、東白川郡	月曜日～木曜日 9時～12時、13時～16時
女性就業会津相談コーナー (会津地方振興局県民環境部内)	0242-29-5588	会津若松市、喜多方市、北会津郡、河沼郡、大沼郡、耶麻郡、南会津郡	
女性就業郡山相談コーナー (いわき地方振興局県民部内)	0246-22-6400	いわき市、双葉郡	

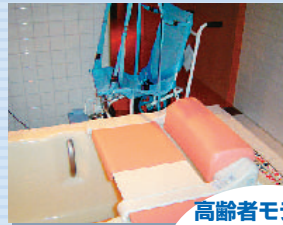
～福祉機器展示室のご案内～

○さまざまな福祉機器を展示しています!

当センターの福祉機器展示室(1階)では、様々な機能を持った福祉用具を約600点展示しており、実際に使用体験することができます。

また介護用品や住宅環境改善等に関する電話相談も実施しておりますので、ぜひご相談ください!

連絡先:福島県男女共生センター 福祉機器展示室
電話 0243-23-8316



**ユニバーサル
デザインコーナー**
“誰にでも優しい”
ユニバーサルデザインの
グッズ等を展示しています

高齢者モデル室
自立支援と介護負担の
軽減ができるような
福祉用具の活用例を
紹介しています

未来館
MIRAIKAN NEWS

2004.12
No.17

編集・発行

「未来館NEWS」

財福島県青少年育成・男女共生推進機構
福島県男女共生センター～女と男の未来館～
〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1
TEL (0243) 23-8301(代) FAX (0243) 23-8312
ホームページアドレス <http://www.f-miraikan.or.jp>
メールアドレス mirai@f-miraikan.or.jp



この広報誌は、古紙配合率100%再生紙を使用し、環境にやさしい大豆インキを使用しています。